

Cooperation with High School

高大連携による「府丘越中万葉大壁画」の実践報告

富山大学芸術文化学部講師 ペルトネン純子

1. 実践概要について

本実践は、「地域からの相談案件」の一つとして富山県立伏木高等学校（以下、伏木高）から芸術文化学部へ寄せられた相談の一つで、ペルトネンが取り組んだものである。実践の概要は表1の通り。

表1 実践の概要

項目	内容
壁画場所	富山県立伏木高校 生徒玄関前の壁
壁画寸法	縦2.1m、幅13m（材質はコンクリート）
制作案	・「越中万葉」の情景と短歌をモチーフに四季を表現する。 ・大伴家持や坂上大郎女、かたかご（カタクリ）や桃の花と短歌をモチーフにする。 ・立山連峰、二上山、渋谷（雨晴海岸）と短歌などをモチーフにする。
実践時期	平成25年9月～平成26年3月
指導対象	富山県立伏木高校生徒 6名
実践指導	ペルトネン純子
指導補助	芸文3年生4名 （榎尾菜央、杉渕愛理、中村友香、鈴木芽衣）

2. 制作を通して体験させる目標について

伏木高の特徴は、国際交流科を設置していることである。特に越中万葉に関する取組を国際交流とともに多く行っている。また芸術教科（音楽、美術、書道）の指導は1学年目のみで、本実践に参加する生徒は、美術を専門に学ぶ生徒ではない。

そのような生徒への導入において、容易に取り組める活動だと捉えさせ、生徒の“こんなことができたらいいな”という思いを広げさせたり深めさせたりしながら、多くの人に興味・関心を持たせる壁面にしようという制作目標を生徒に持たせる。

次に展開1段階目として“こんなことができたらいいな”という思いを広げさせたり深めさせたりしながら、他者の意見を取り入れることから次の行動を導き出させる指導を通して、壁画構成及び下描きをさせる。

次に展開2段階目として、他者の意見を取り入れることから次の行動を導き出させる指導とともに、人や地域

等の周囲との調和やコミュニケーションを通して主体的に学ばせながら彩色を行う。

さらに展開3段階目として、芸術文化学部学生の実演による指導から材料や用具の素材特性に合う表現方法に取り組みせるとともに、“こんなことができたらいいな”という思いをさらに広げさせたり深めさせたり、実演による指導から学ばせる¹ことを行う。

そして本壁画制作を通して、人や地域といった周囲から自ら学びとるという学力を美術活動から学ばせることを目標にする。

3. 実際の活動内容について

実際の活動内容の概略は次の通り。

<導入>1時間、制作概要を伝える。

<展開1段階目>3時間、壁画構成を考えさせる。下描きをさせる。

<展開2段階目>5.5時間、彩色をさせる。

<展開3段階目>12時間、実演による指導を通して壁画制作に取り組ませる。

<まとめ>0.5時間、完成披露会。

実際の制作活動において問題と思われた点は、指導者及び生徒の制作時間の調整、さらに天候との調整であった。

また活動の後、参加した生徒にアンケートを依頼した。アンケートの質問内容は次の通り。

- ①今回の壁画制作は、高校生と大学生との共同制作によって行いました。このような制作活動に興味・関心を持つことができましたか？具体的にどのようなことに興味・関心を持ちましたか？
- ②今回の壁画制作は、屋外で行い、さらに活動経過を多くの人に見られていました。このような制作活動に興味・関心を持つことができましたか？具体的にはどのようなことに興味・関心を持つことができましたか？
- ③今回の壁画制作は、越中万葉をテーマに壁画を制作しました。越中万葉や日本の芸術文化に対して、考えや思いを深めることができましたか？

④今回の壁画制作で、あなたが主体的に取り組んだことは何ですか？あるいは、あなたが主体的に取り組まなかったことは何ですか？

⑤今回の壁画制作にかかわった経験を生かして、次に取り組みたいと思ったことについて教えてください。

⑥その他、意見や感想などを教えてください。

また生徒からのアンケート結果は表2から表6の通りである。記入者の氏名等は明記させていない。アンケート用紙ごとに通し表記A～Eをつけた。

表2 アンケートAの記入内容

①	大学生の方々の技術の高さにビックリした。
②	いろいろな人に関心を持ってもらって声をかけてもらえてよかった。
③	できた。
④	色づかいをもっと丁寧になるように工夫したい。
⑤	奥行きの上手な生かし方を今後活用していきたい。
⑥	—

表3 アンケートBの記入内容

①	1人1人のアイデアを持ち寄り1つのものを作ることの楽しさ。
②	励ましや応援の声をもらいやる気ができました。
③	できたと思います。歌を元に絵を描く楽しさや想像が広がりました。
④	細かい色付けやグラデーション。
⑤	みんなで何かを作り上げる楽しさをこれからの学校行事に生かしていきたいです。
⑥	壁に絵を描くのは初めてだったので難しい点もありましたが楽しく取り組みました。

表4 アンケートCの記入内容

①	大学生の技術が高くすごいと思った。
②	通行人の方々などにも声をかけてもらえてうれしかった。
③	できた。
④	1つ1つの色使いに気をつけながら行ったこと。
⑤	—
⑥	絵を描くことが苦手で壁画の制作をするのはとても不安だったけど、先生の指導を受けながらやれてとても楽しいと感じました。

表5 アンケートDの記入内容

①	大学生の素晴らしい技術を見ることができ絵に対する興味が持てました。
②	人に見られながらの活動は恥ずかしいので、できることならやりたくありません。
③	深めることができました。
④	桃の花を描くことに取り組みました。
⑤	このようなことがまたあれば手伝いたいと思いました。
⑥	とても良い経験になりました。

表6 アンケートEの記入内容

①	大学生と共同制作を行い、大学生の技法を学び、現役の大学と交流を通して、大学生活について詳しく知ることができ、さらに将来の進路の手助けにもなったと思います。大学生活に対する興味が高まることもできました。
②	さまざまな人に見てもらい多く意見を聞き入れることで、よりよい壁画を描くことができました。屋外の活動なので雨や雪の影響もありましたが、とてもすばらしい経験になったと思います。
③	伏木地域は万葉集と深いかわりを持つ地域なので、今回の壁画制作でより詳しく万葉集について学ぶことができました。歴史が持つ伏木を表現することができるように、自分の考えをもっと深める必要があると感じ、実際の制作活動中でも自分の考えを生かすことができました。
④	春、夏、秋、冬がはっきりわかるように四季の特徴を一番に表現してみようと思いました。桜を制作しました。春の感じを表現できるように描くことができました。もしできたら空の模様や草の変化にも取り組みたいと思いました。
⑤	大学の先輩や先生から学んだ技法をこれからの作品にいかしていきたいです。
⑥	—

4. 今後への課題

指導者及び生徒の日程調整だけでなく、天候との調整が大変難しいことが、今回の実践で分かった。このことから特に屋外における実践を行う際には、「活動時期」、「活動時間帯」を十分に踏まえなければならないと分かった。しかし制作を通して体験させたい目標については、アンケート結果を見るとおおよそ達成できたのではないかと考えている。これらのことを踏まえ、他の高大連携や地域との連携による美術実践に生かしてゆきたいと思う。



完成した壁画

参考文献

- 1 パルトネン純子、「模刻教育の意味について—東京芸術大学鍛金教育の歴史を通して—」、東京芸術大学大学院美術研究科美術専攻芸術学研究領域美術教育分野博士学位論文、2009年。